

カドミレス 黄銅棒

RoHS指令対応
(カドミ75PPM以下)

サイズ

丸棒 4.5~60mm

六角棒 5~40mm

常時豊富に在庫
その他のサイズも対応
可能、お任せ下さい!

株式会社 三木商会
東大阪営業所

〒578-0921

大阪府東大阪市水走3丁目5-10

TEL 072-962-8000

FAX 072-962-8666

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836
購読料 半料金44,100円(前納) 3カ月22,050円

輸入は自動車関連のみ回復 アルミ新地金など全てが減少



橋本健一郎氏

橋本金属
アルミ橋本健一郎氏リポート②

【概況】十月前半、予想外の中国のGDPやPMI(消費者物価指数)悪化などマイナスマテリアルはあったが、EUが銀行への資本注入に関して言及したことが、独仏会談の結果、更にEUのパロウソ欧州委員が銀行の自己資本率引き上げについて言及したことから欧州懸念が後退し、一八八ドルと五五ドル

上げての前半締めとなった。

後半、九月の中国貿易統計の輸出が二カ月連続で低迷していることやスベイン国債の格下げなどマイナスマテリアル要因もあったが、二十六日の欧州会合で結果的に欧州債務問題について具体策がでたことを好感、さらに十月の米耐久財新規受注で新規受注が季節調整済みの前月比・七・七増と予想の〇・四増から大幅増加。また九月の新築住宅着工数が前月比五・七増の年率三・一萬三千戸、増加率が今年三月以来となったことから米景気回復期待が台頭し上昇。

十一月一日現在、LME(現物後場)一、二三〇ドルの四〇ドル強上昇のスタートとなった。

【前月の経済指標】

- ◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比・五・四増の八萬三、五九三台であった。
- ◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比二・一減の二四萬七、九二七台。
- ◆三カ月間の自動車生産計画は昨年対比二〇・四増の二七七万、二〇〇台。

(二面へ続く)

古河タイにアルミ圧延工場

一貫生産拠点の構想
月着工

古河スカイはこのほど、タイに約一三〇億円を投じてアルミニウム冷間圧延の新工場を建設すると発表した。一〇一二年三月に着工し、一四年一月に稼働開始の予定。第一期の構想では一四年後半をめどに、さらに新工場を増設・稼働する予定で、アルミニウム地金から熱冷間アルミ圧延品を作る一貫生産拠点とする。飲料缶や自動車用部材などで需要の高まる、東南アジア市場に対応する。

新工場は、タイのラヨン県アマタシナイ工業団地に立地し、古河スカイの日光工場(栃木県日光市)で休止予定のアルミ冷間圧延機を移送し、利用する。第一期分で年産約六万トンの予定。

アルミ発生難、需要増で供給不足か

ALME 相場 値固めは済んだ可能性も

(二面より続く)

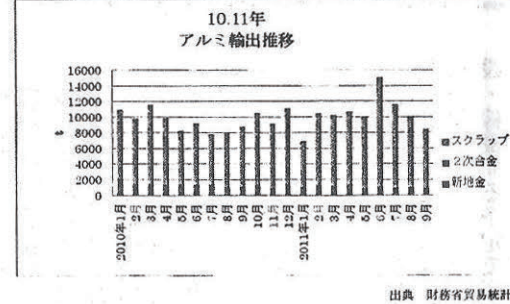
◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)二〇・二%減(昨年比一〇・八%減)の六万四、二〇六戸であった。

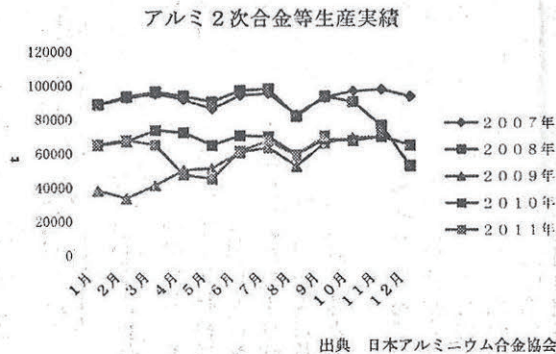
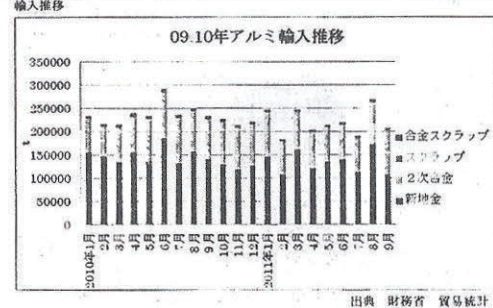
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比七〇・二%減の五〇t、二次合金が二%減の八六六t、スクラップが一六・八%減の七、五四六t。

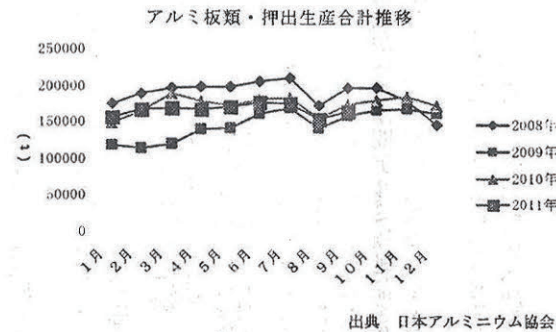
輸出	7月	8月	9月
新地金	146 t	168 t	50 t
前月比	-7.6%	+15%	-70.2%
二次合金	838 t	884 t	866 t
前月比	-13.1%	+5.5%	-2%
スクラップ	10631 t	9069 t	7546 t
前月比	-24%	-1.5%	-16.8%
輸出推移			



輸入	7月	8月	9月
新地金	11万2685 t	17万1881 t	10万7308 t
前月比	-19.1%	+52.5%	-37.6%
二次合金	7万4021 t	9万1832 t	9万5227 t
前月比	-3.1%	+24%	+3.7%
スクラップ	601 t	944 t	661 t
前月比	+6.7%	+57.1%	-30%
合金スクラップ	2875 t	4460 t	4667 t
前月比	-6.6%	+55.1%	+4.6%
輸入推移			



日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比九・八%増の七万〇、七三二tであった(昨年対比二%増)。(六面に続く)



【前月の国内指標】
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比七・一%増の一六万二、八一五t(昨年対比一・一%減)。

(二面より続く)

【見通し】

今月は自動車関連以外、復興需要の一服を感じ取れる月となった。

自動車生産は前月比二五・四％増の八万三、五九三台と大幅増加、前年比では四・五％減と小幅減少。

また国内自動車販売台数も二四万七、九二七台で前年比二八％増と二カ月連続回復、いよいよ販売回復も本格化か？

自動車関連のアルミ二次合金生産は、前月比二〇％増の七万〇、七三二t。昨年対比は一・一％減。

仮設住宅による復興需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比七・一％増の一六万二、八一五t。昨年対比一・一％減と三カ月連続でほぼ昨年程度まで回復。

新設住宅着工数は季節調整前月比二〇・二％減の六万四、二〇六戸。前年比で一〇・八％減と復興需要も一服。

輸入塊は上海シグマが十月末現在で二、四〇〇ドル(マイナス二〇)、ロシア塊は二、二一〇ドル(マイナス一〇)と下落している。

輸入は新地金が前月比三七・六％減の一〇万七、三〇八t、自動車関連の二次合金は三七％増の九万五、二二七t、合金スクラップ

ME
L 非鉄金属

全般に持続的な上昇は困難か 投資家のリスク回避姿勢根強く

▽アルミⅡ直物は一一〇・〇〇ドル安、三カ月物は一〇六・五〇ドル安で越週した。週間ベースでは二週ぶりのマイナス。ギリシャのパパンドレウ首相が同国への支援策をめぐって国民投票を実施する意向を示したことを受け、非鉄全般で神経質な値動きが続いた。最終的に国民投票は見送られることになったが、欧州債務問題の先行き不透明感が買い控えにつながるとの見方が出ている。

▽ニッケルⅡ直物は一、三二七・五〇ドル安、三カ月物は一、三二七・五〇ドル安で越週。週間では二週ぶりのマイナス。

▽銅Ⅱ直物は二九八・〇〇ドル安、三カ月物は二八五・〇〇ドル安で越週し、二週ぶりのマイナスとなった。相場に対する需給要因の影響が低下する一方、欧州債務問題を背景にした投資家のリスク回避姿勢が根強いいため、目先は軟調な展開を予想する向きが多い。

ファストマーケットのウィリアム・アダムス氏は「非鉄は持続的に上昇するのが難しく、

は四・六％増の四、六六七t、スクラップは三〇％減の六六一tと自動車関連のみ回復。輸出は新地金が前月比七〇・二％減の五〇t、二次合金が二％減の八六六t、スクラップが一七％減の七、五四六t。国内の発生難や内需の回復から全て減少となった。

LME価格について、先月の欧州会合で一応の道筋がついたことから一旦懸念は遠のいたのではない。またLME価格でも先月二、一〇〇ドル割れがなかったことから値固めは済んだと考えており、米経済指標の健闘及び現在のファンダメンタルズ(需給)を考えれば、LMEで二、二〇〇～二、三〇〇ドルを予測。

アルミ原料需要・価格に関して新設住宅着工数は一〇・八％減(前年比)と復興需要も一服。故に自動車関連以外の需要は減少。前月に続き、最大の需要家である自動車メーカーの自動車生産・販売・計画共、約二〇％増と好調維持が期待されていたが、タイの洪水被害で先行きは不透明である。とはいっても現在は好調なため今月の需給は発生難、需要増の供給不足。

LME価格については十月後半価格から据え置きを予測。

買われても高値では売りに押されるだろう」と予想している。

▽その他Ⅱ鉛の直物は一三・〇〇ドル高、三カ月物は一五・〇〇ドル高で越週。亜鉛の直物は一五・五〇ドル高、三カ月物は四・五〇ドル高でそれぞれ越週した。

すずは直物が七二・五〇ドル高、三カ月物は六二・五〇ドル高で越週。

労使交渉に進展なし

ペルーのセロベルデ銅山の労働組によると、労使紛争が一カ月以上続く中、無期限スト終結に向けて四日に交渉が行われたが、進展はなかった。

ある労組幹部によると、九月二十九日からストを続けている労働者たちは、同銅山を管理する米鉱業大手フリーポート・マクモランと交渉。政府に対しては労使紛争解決を求めている。